



## パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年4月21日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15年度会長: 小林昭次)  
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307号室  
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp  
http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC



### 第577回例会 4月21日 AM7:30～8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 奥山恵理子 ●点鐘: 小林昭次
- 議事: 米山委員会 「米山記念奨学事業について」

<出席報告> 本日出席率65名 82, 27% 前々回出席率87, 34%

#### ■会長挨拶

皆さんおはようございます。先日の正副会でグルメの話が出たので今日はグルメの話をしたと思います。

「その手は桑名の焼き蛤」ということわざを皆さんもご存知だと思いますが、まだ食してない方はぜひ。単純にむいて焼くのですが、貝は熱くなると熱の反対側にくっつきます。貝を開いた時に中のおいしい汁が必ず外に出してしまうので、焼く時はちょうつがいを持って蓋をして蒸しています。なかなか乙で淡白な味なので人によっては松阪牛より美味しいという人がいるくらいです。ぜひ一度食べに行かれてみてはどうでしょうか。

桑名の蛤は昔から有名ですが、かつて伊勢湾台風があった時に、昭和天皇が当時の農林大臣を呼ばれて「桑名のアサリはどんな具合か？」と質問されたそうです。大臣は返答に詰まりました。「天皇はアサリと蛤をごっちゃにしている」と考えたので、官庁に帰って聞いたところ、当時から既に蛤はほとんどが輸入ばかりでアサリの養殖がメインでした。天皇はそのことを既にご存じだった事がわかり、陛下に指摘しなくて良かった…という大臣の話の本で読んだことがあります。

桑名はかつて全国の米相場が決まる所でもあり豪商がいました。今でもお座敷文化が残っていて、なかなかいい所です。皆さんもぜひ行かれたらどうかと思います。

今日は蛤のお話でした。今日も一日よろしく願います。

#### ■幹事報告

おはようございます。

先週の土曜日に甲府での地区協議会にご参加頂いた皆様はお疲れさまでした。

早朝よりありがとうございました。次年度に向けて色々動き出しています。

皆様のご協力をお願いいたします。

次年度の会員手帳の修正のお申し出のあった方の校正をレターボックスに

入れさせていただきました。修正箇所のご確認をお願いいたします。

本日は例会終了後に第10回理事会がございます。

出席義務の方はお忘れのない様お願い致します。

以上幹事報告でした。

#### ■スマイル

牛田悟会員:

郵便局では毎年「浜松まつり」の記念切手を発行しております。初子のお祝い、お土産、記念品として大変ご好評いただいで売り切れとなる数量限定の人気の切手です。今回特別に注文を取りまとめます。ご注文頂ければ来週の例会にご用意いたします。よろしく願います。



小澤邦比呂会員：

本日は米山奨学事業についての卓話の機会をいただきましてありがとうございます。4月19日(日)には米山梅吉記念館において新米山奨学生・カウンセラーオリエンテーションが開催され、知久会長エレクト、鈴木孝尚副幹事、村田カウンセラー、青山地区委員が出席されました。また5月より新米山奨学生、于春蘇(ウ・シュンソ)さんが例会に出席することになりますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

小澤邦比呂会員：

本日の会場設営にあたりオークラホテル市川様、河合様に大変ご苦労おかけいたしました。感謝申し上げます。

## ■ 議事

### 地区米山記念奨学委員長 小澤 邦比呂会員

本日は、米山記念奨学事業につきまして、卓話のお時間をいただきました。感謝申し上げます。また、4月18日(土)甲府での地区協議会、19日(日)米山梅吉記念館での新奨学生、カウンセラー、オリエンテーションと関係者の皆様には2日間に渡り、大変お疲れ様でした。

さて、本題に入りますがロータリーとは、「職業倫理を守り、人道的な奉仕活動を行いながら、世界の平和を目指す実業家たちの集り」であります。その中でも米山記念奨学事業は、日本のロータリークラブのオリジナルの奨学事業であり、1920年に東京ロータリークラブが米山梅吉氏の死後、彼の偉業をたたえ、その精神を受け継ぐ意味で始め、今年で63年目になります。2015年3月30日現在123カ国18,647名の米山記念奨学生が巣立っています。2015年度、当2620地区では、新米山奨学生19名が誕生いたします。「留学生が平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築く」ことを目的に始められ、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業であり、財団法人の設立に至り、日本最大の民間奨学事業にまで成長いたしました。奨学生の奨学期間におけるフォローとサポートを世話クラブとカウンセラーが行う制度は、米山記念奨学事業の真髄であり、奨学生にとって、地域のリーダーでありますロータリアンとの交流は、学校では体験できない貴重なチャンスであり、人間としての成長の場でもあります。米山記念奨学委員会が常に米山奨学生にお願いしています心得として大切なことは、「全国のロータリアンが米山奨学生としての学問への熱意や、将来の活躍に期待して、働いたお金を寄付して下さったものであり、真摯に勉強に取り組み、ロータリークラブと良い交流を心がけることです。そして奨学期間終了後もカウンセラーや、世話クラブの人々と連絡を絶やさないようにして

下さい」ということです。また米山記念奨学事業は、全国約89,000名のロータリアンの寄付からなりたっており、毎年約13億の寄付が寄せられ、奨学生に使われる事業費は約95%と公益性が極めて高いことが示されています。

全国の1名あたりの年間平均個人寄付額は15,200円であり、当2620地区は13,541円と全国第16位になっています。

他地区より寄付が多ければ、より多くの奨学生を採用でき、当地区の年間平均個人寄付額の目標は1名あたり16,000円以上となっています。日本のよき理解者として、また奨学生の母国と日本の懸け橋になるべく、将来、国際社会で活躍する留学生を支援するこのロータリー米山記念奨学事業であります。どうぞご支援、ご協力をお願いいたします。

中華民国の諺「水を飲めば、その源を思う」

何気なく飲む水だけれど、自らの口に入るまでには色々な人々の努力によって、恩によって飲めるまでになっている。だからこそ、その恩を忘れず、いつかは恩返しをする。そして恩を直接受けた人以外にも恩を返すことが大切である。

以上でございます。ありがとうございました。

